

17歳の今を、まっすぐ歌詞に込めて。

誰かの居場所になるように

日々の生活の中で感じた感情をまっすぐ歌にした彼女たちのオリジナル楽曲。勢いのある音楽と力強い歌声は、聞く人の心の奥に突き刺さります。作詞は主にボーカルの愛さんが担当。自分自身の想いや葛藤、そしてまっすぐな感情を綴ったその歌詞は、聞く人たち



から多くの共感を集めています。「誰かの居場所になる曲を作る」ということを大事にしているアカネサスのみなさん。曲を聞いてくれた人から、「救われました」というコメントが寄せられたこともあったといいます。自分が感じたことを自分の言葉で表現して歌詞に込めているからこそ、その歌が誰かの居場所になっています。

先輩の後を追いかけて

アカネサスが結成されたのは、彼女たちが高校一年生のとき。中学生のときから音楽に興味があったことや、窪川高校軽音楽部で活躍している先輩たちがいたこともあり、窪川高校へ入学し、軽音楽部に入ったそうです。

多くの共感を集めた 失恋ソング「アサガオ」

アカネサスの最初のオリジナル楽曲として発表された「アサガオ」は、十代の切ない恋をアサガオの花言葉にのせて送っている曲です。「まだ私君を見てる」「こんなに全部覚えてるのに」など、まっすぐな感情と恋心が歌われており、動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開しているミュージックビデオの再生回数は二万四千回を超え、多くの共感と支持を集めています。



勢いを武器に突き進む

楽曲も活動も、勢いが武器のアカネサス。初めて出場した軽音楽祭（高知県高等学校軽音楽演奏会）では、勢いが溢れ出て歌が震えたり、曲が崩れてしまった経験も。しかし、練習やステージなどでの経験を重ね、自分たち自身ではあまり手ごたえを感じていなくても、聞いてくれた人からは良い評価をいただけることも多くなったといいます。そして、今年の夏に行われた軽音楽祭では、見事に最優秀賞を受賞。彼女たち自身のたくさんの経験から、強さと優しさと勢いを兼ね備えたアカネサス。今後の活躍にも注目です。



Message

アカネサスから四万十町のみなさんへ
いつも本当に応援、ご協力いただきありがとうございます！イベントに呼んでくださったり、お店にポスターを貼ってくださったり、CDを置いてくださったり、全国大会に行くために寄付をしてくださったりなど、言い出すとキリがないくらい四万十町のみなさんにたくさん助けていただきました！「テレビみたよ！」「新聞載っちゃったね！」「これからも頑張ってるね！」「応援しゆきね！」など、温かい言葉をかけてもらえることがとても嬉しいし、これからも頑張ろうという気持ちになれます。四万十町でライブをする機会はありませんに、コロナ禍で様々なイベントが中止になり、とても寂しいです。しかし、私たちはワクチン接種も受け、これからはコロナに負けない、たくさん活躍したいと思っています！動画や音源だけでなく、私たち自慢の勢いのあるライブを実際に観て楽しんでほしいです！四万十町でライブをする機会があれば、ぜひ見に来てください！ライブハウスにもぜひお越しください！



@akanesasu__



@akanesasu_0619



アカネサス - アサガオ

